

復興への道のりはまだまだ遠く

11月29日～12月2日、労福協主催の南三陸町震災復興支援ボランティアが行われ、36名が参加し、3班に分かれて漁業支援と土砂の除去作業を行いました。

初日(11/30)は、漁業支援として、ホタテ貝の養殖の準備である、「耳吊り」と呼ばれる作業を行いました。最初は戸惑いながらの作業でしたが、すぐに慣れ現地の方から、「群馬のみなさんは作業が早いね」とお褒めの言葉をいただきました。

2日目(12/1)は、民家の基礎へ堆積した土砂を取り除く作業を行いました。津波により土地の境



作業を終えた参加者

界線が分からなくなってしまったため、民家の基礎を基準に測量を行います。土砂を取り除くことで、測量作業をしやすくする目的があります。

参加した情報労連N T T労組の鈴木通則さんは、「あまりにも酷い状態であり、津波の脅威を肌で感じました。また、復興への道のりは、まだまだ時間がかかるので、復興支援活動は重要だと思いました」、中央労金の安中崇博さんは、「一人の日本人として現地の空気と現地の方々の想いを周囲の方に伝えていかなければいけないと思いました」と話していました。

2月より連合群馬のホームページにて、ボランティア情報を掲載しますので、是非ご参加ください。



作業前



作業後

労福協海外植林ボランティア

～ジャングルに植えた小さな苗が無事に育つことを願う～

11月9日～13日、マレーシア・ボルネオ島での労福協第7次海外植林ボランティアに、産別・地協、事業団体、事務局から19名が参加しました。

現地では2日間にわたる植林作業をはじめ、小学生や村民との交流などを行いました。

植林場所へ向かう道中、トゲのある植物に遭遇したり、急な斜面を登り泥だらけの竹林を滑り落ちたりしながら現地へたどり着きました。作業はマレーシアの猛暑の中、団員全員で汗を流し、慣れない道具を使って、1つ1つ丁寧に穴を掘り、フタバガキ科の苗を植えました。一生懸命植えた苗が無事に育つよう願っています。



セレモニーを終えての記念撮影



急な斜面への植林



子どもたちに日本の小学校を紹介

あしながPウォーク



11月11日、前橋イベント広場を起点に、あしながPウォーク10が開催され、ミネラルウォーター120本を実行委員会へ寄贈しました。ミネラルウォーターは宮城県の高校生によって発案されたもので、売上げの一部は東日本大震災の復興支援に寄贈されます。

ぐんまボランティアフォーラム2012



11月24日、前橋市総合福祉会館で、ぐんまボランティアフォーラム2012が開催されました。このフォーラムは、多分科会でのディスカッション 様化したコミュニティに対応したボランティアや市民活動の「つながり」をさらに広め・深めることを目的に開催され、今回は東日本大震災復興支援がテーマとなりました。連合群馬も主催団体の一員として参加し、分科会で行われたパネルディスカッションでは、新井副事務局長がパネリストとして連合群馬の震災復興支援の取り組みを紹介しました。

北方領土の返還を!



11月21日、組合員や県民から協力いただいた、北方領土返還要求実現に向けた45,396筆の署名を、県国際課に提出しました。この署名は、2月に開催する北方領土の日に全国から集められた署名とともに政府に提出されます。